

会 議 記 録

| | | | |
|-----|----------------------|-----|-------------------------------|
| 要件 | 令和7年度千葉県農業多面的機能発揮検討会 | 日 時 | 令和8年1月13日(火) 13:30 ~ 15:45 |
| 場 所 | 千葉県森林会館 5階 第1会議室 | | |

(概要)

日本型直接支払制度(多面的機能支払交付金、中山間地域等直接支払交付金、環境保全型農業直接支払交付金)及び中山間ふるさと・水と土保全対策事業は第三者機関を設置することとされている。

今年度も第三者委員会を開催し、各事業の実行状況の点検及び効果の評価等を行った。

なお、千葉県農業多面的機能発揮検討会傍聴要領第1条の(2)に基づき受付を行った結果、希望者なしであった。詳細は以下の通りである。

【質疑応答、意見等】

●多面的機能支払交付金

Q:新規加算措置が追加されたが、今年度の実績はあるのか。(構成員)

A:実績はない。しかし、来年度行いたいとの声があるので、活用推進をしていきたい。(事務局)

(意見)

- ・千葉県のカバー率の高い場所と広域組織がある市町村は被っている。広域組織化は重要だと思うが、改良区も事務が手一杯というのを国に伝えることが、本当の事務の簡素化につながるのではないか。
- ・農作業事故があると、その親族も悲しい思いをする。今後も農作業安全を周知していただきたい。
- ・猛暑による熱中症もある。それも含めて、農作業安全として周知していただきたい。
- ・ナガエツルノゲイトウの庁内連絡会議はありがたい。しかしナガエツルノゲイトウの繁殖は進んでいる。状況を随時観察していただきたい。

●中山間地域等直接支払交付金

Q: 5期対策と6期対策の比較に、「および、地域計画区域内の農用地」が追加されているが、要件が厳しくなった理由はあるのか。(構成員)

A: 地域計画区域内で農用地を守っていくために追加したのではないか。県内では要件追加に伴う影響はない。(事務局)

Q: スマート農業加算について、自分で購入してもよいのか。それとも作業委託に限るのか。(構成員)

A: どちらでも問題ない。5年間で積み立てもできるので、積み立てて購入も可能。(事務局)

(意見)

- ・多面的機能支払交付金と同様に、事務負担軽減が課題であるが、他県では、多面的機能支払交付金及び本交付金の両方の交付を受け、事務の軽減を図っているところもある。そのような対応も、広域化とともに検討いただきたい。
- ・「ネットワーク化」とあり、名前でハードルの高さを感じているかと思う。しかし、実際は多くの組織は多様な組織が絡んでいると思うので、必ずしもほかの協定とネットワーク化する必要が無いのであれば、それを県か

ら他の組織も加算を受けられるよう誘導していただきたい。

・草刈りサミットのような取組については、地元の方が草刈りを楽しいものとして参画しているのが良い。このような取組みが他地域にも波及できるように支援していただきたい。

●環境保全型農業直接支払交付金

Q:有機農業にて新たに需要が増えたのか。既存の取組が増えたのか。(構成員)

A:両方。オーガニックビレッジに取り組む市町村では新規団体が増加傾向。(事務局)

Q:有機農家は少量多品目か。(構成員)

A:小面積では少量多品目。一定以上の規模になると品目を絞って大規模化、省力化する傾向。(事務局)

Q:多面・中山間との違いは、多く申請すれば予算規模が限られ、減額される懸念。県としてはどのように推進していくのか。(構成員)

A:国は有機農業の移行期を重点的に支援する見込み。県ではオーガニックビレッジなど、販路まで確保された状態での有機農業を支援していきたい。(事務局)

(意見)

・町全体で取組めることは活用拡大のポイントでは。他の地域にも紹介をしていただきたい。

・申請面積を作物別にまとめた方が今後の推進に有効と思われるので検討していただきたい。

・安全な農産物の生産はうれしいが、東葛飾地区、東京など、需要が多い地域に対するさらに安定した流通も考えていただきたい。

・炭の施用について、原料に竹林を検討している地域があり、農地だけではなく里山の保全につながる。このような取り組みも引き続き支援いただきたい。

●中山間ふるさと・水と土保全対策事業

Q:中山間活性化チャレンジ事業にて大学生が入ったとのことだが、高校生の指南役ということで入ったのか。(構成員)

A:「自分のやっていることは役になっているのか」と迷う高校生に、先輩の立場からアドバイスいただいた。(事務局)

Q:今まで高校の取組を意見交換する場はあったのか。(構成員)

A:チャレンジ事業の集大成として毎年活動報告をしていたが、農業従事者や大学生を参集したのは今年が初めて。(事務局)

Q:3校のうち、生徒が一番喜んでいたのはどのような取組か。(構成員)

A:一番は決められないが、学校によって特色がある。(事務局)

Q:成果目標、取組内容とのリンクが分かりづらい。直接的な成果目標を立てた方が分かりやすいのではないか。(構成員)

A:中山間地域が活性化していくため、外部から人を呼ぶため、複数集落の目標を立てている。(事務局)

(意見)

・高校生、大学生が現場に足を運ぶのは波及効果、現場も影響あると思うので今後も進めていただきたい。

・生徒がやる気になるのは難しいが、その支援を行っていると感じた。生徒にとっても貴重な体験になるので、広げていただきたい。

以上